

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月4日

上場取引所 JQ

上場会社名 フィールズ株式会社

コード番号 2767 URL <http://www.fields.biz/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大屋 高志

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレートコミュニケーション室長 (氏名) 畑中 英昭

TEL 03-5784-2111

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	24,521	△62.3	1,368	△77.5	1,090	△80.5	△273	—
21年3月期第3四半期	65,051	—	6,082	—	5,604	—	1,654	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	△814.60	—
21年3月期第3四半期	4,768.27	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	49,808	38,000	76.1	112,862.97
21年3月期	52,064	39,496	75.8	117,326.58

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 37,883百万円 21年3月期 39,463百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	2,000.00	—	2,500.00	4,500.00
22年3月期	—	2,000.00	—	—	—
22年3月期(予想)	—	—	—	2,500.00	4,500.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	70,000	△4.2	10,000	410.2	10,000	909.1	4,500	—	13,380.59

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 347,000株 21年3月期 347,000株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 11,343株 21年3月期 10,643株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 336,308株 21年3月期第3四半期 347,000株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成21年5月12日発表の連結業績予想の修正は行っていません。上記の予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件等については、6ページ【定性的情報・財務諸表等】3.連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

・定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

(1) 当第3四半期連結累計期間の概況

21世紀の成熟化する日本社会において、人々の余暇時間は確実に増加し、これからもその傾向は続くものと認知されています。人々は、その嗜好によって時間消費の多様なニーズを生み出しており、ここには、多くのビジネスチャンスが存在しています。

「すべての人に最高の余暇を」という企業理念を掲げる当社及び当社グループは、この増加をたどる余暇に対して商品・サービスを提供する企業グループであり、人々の生活や環境等の変化を研究、分析、予測することでビジネスチャンスを見だし、事業活動を展開しています。

当第3四半期連結累計期間（4月－12月）の連結業績は、売上高24,521百万円（前年同期比62.3%減）、営業利益1,368百万円（同77.5%減）、経常利益1,090百万円（同80.5%減）となりました。また、大阪支店の整備に伴う有形固定資産除却損等を特別損失として506百万円を計上しており、その結果、四半期純損失は273百万円となりました。

各フィールドの状況は以下の通りです。

(2) 当第3四半期連結累計期間の事業の種類別セグメント分析

① P S ・ フィールド

現在のパチンコ・パチスロ産業は、良質なエンタテインメントとして成長し、新たなファン層を創造することが求められており、当社は遊技機の企画開発領域において未来の発展を目指した挑戦を続けています。

第2四半期連結累計期間（4月－9月）においては、パチンコ遊技機販売事業では、大型タイトルのパチンコ遊技機「CR新世紀エヴァンゲリオン～最後のシ者～」が、同シリーズの最高販売台数である累計237,000台販売と好調な結果となりました。一方、パチスロ遊技機販売事業では、2機種を投入しました。

第3四半期（10月－12月）においては、パチンコ遊技機販売事業では「CR料理の鉄人」の1機種を投入、パチスロ遊技機販売事業では「I am KONISHIKI」「炎の熱血教師」の2機種を投入しました。また、第4四半期（1月－3月）に予定しているパチンコ・パチスロ遊技機「CR清水の次郎長～命の絆～」 「新世紀エヴァンゲリオン～魂の軌跡～」等の有力タイトルの投入に向けて営業施策を展開しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のパチンコ遊技機総販売台数は281,981台、パチスロ遊技機総販売台数は12,677台となり、P S ・ フィールドの売上高は21,505百万円、営業利益は1,463百万円となりました。

② スポーツエンタテインメント・フィールド

第2四半期連結累計期間においては、新たな体制のもと将来的な収益力強化に向けた施策を推進しました。

第3四半期においては、「トータル・ワークアウト」と連動したアスリートマネジメントの強化や、Webコンテンツ「JSM-TV」をはじめとしたWebマーケティングの強化を進め、アスリートマネジメント事業に所属するアスリートの付加価値を高める施策を実施するなど、収益機会の創出を推進しました。

以上の結果、スポーツエンタテインメント・フィールドの売上高は1,807百万円、営業損失は253百万円となりました。

③ モバイル・フィールド

第2四半期連結累計期間においては、株式会社フューチャースコープが運営する携帯コンテンツにおいて、有料会員の入会促進及び退会抑制に向けた施策を図りました。

第3四半期においては、同社の主力携帯コンテンツである「フィールズモバイル」の有料会員数は約38万人（平成21年12月末）となる一方、既存提供サービスのコンテンツ商品群の取捨選択と新規サービスの検討を引き続き推進しました。

以上の結果、モバイル・フィールドの売上高は1,403百万円、営業利益は305百万円となりました。

④ その他・フィールド

第2四半期連結累計期間においては、アニメーションの企画・制作及びプロデュースを目的としたルーセント・ピクチャーズエンタテインメント株式会社では、P S・フィールドにおけるアニメーションクオリティアップを図るグループシナジー事業に積極的に関与しました。また、同社が有する技術であり、次世代の映像表現として世界的に注目を集めている立体映像技術における事業化の検討を推進しました。

第3四半期においては、引き続きP S・フィールドとのグループシナジーを図り、立体映像技術における事業化を推進しました。

以上の結果、その他・フィールドの売上高は270百万円、営業損失は69百万円となりました。

(注) 各セグメントの売上高には、内部売上高又は振替高を含んでいます。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

流動資産は、24,317百万円と前連結会計年度末比817百万円の減少となりました。これは主に商品化権前渡金の減少によるものです。

有形固定資産は、9,815百万円と前連結会計年度末比1,083百万円の減少となりました。これは主に東京事務所の建物及び土地等の売却及び大阪支店の整備に伴う建物等の除却によるものです。

無形固定資産は、2,387百万円と前連結会計年度末比374百万円の減少となりました。

投資その他の資産は、13,287百万円と前連結会計年度末比19百万円の増加となりました。これは主に長期貸付金の増加、繰延税金資産の減少によるものです。

以上の結果、資産の部は49,808百万円と前連結会計年度末比2,255百万円の減少となりました。

(負債の部)

流動負債は、7,481百万円と前連結会計年度末比65百万円の減少となりました。これは主に前受金の増加、預り金の減少によるものです。

固定負債は、4,326百万円と前連結会計年度末比695百万円の減少となりました。これは主に社債の償還によるものです。

以上の結果、負債の部は11,807百万円と前連結会計年度末比760百万円の減少となりました。

(純資産の部)

純資産の部は、38,000百万円と前連結会計年度末比1,495百万円の減少となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ3,064百万円増加し、14,246百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、5,958百万円（前年同期は3,714百万円の収入）となりました。これは主に法人税等の還付2,868百万円、売上債権の減少2,812百万円、預り金の減少1,309百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、649百万円（前年同期は5,120百万円の支出）となりました。これは主に有形固定資産の売却による収入615百万円、貸付けによる支出357百万円、有形固定資産の取得による支出411百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、2,238百万円（前年同期は1,604百万円の収入）となりました。これは主に配当金の支払1,501百万円、社債の償還による支出660百万円、自己株式の取得による支出76百万円等によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間までは概ね計画通り進捗しており、平成21年5月12日に開示しました通期の業績予想に変更はありません。

なお、第4四半期は、業界に先駆けた取り組みであるドラマ連動型のパチンコ遊技機「CR清水の次郎長～命の絆～」(平成22年2月発売)、及び大型タイトルのパチスロ遊技機「新世紀エヴァンゲリオン～魂の軌跡～」(平成22年3月発売)等の有力タイトルを複数発表しており、通期業績の達成に向けて邁進してまいります。

	平成22年3月期 見通し	平成21年3月期 実績	前年同期比
売上高	70,000百万円	73,035百万円	4.2%減
営業利益	10,000百万円	1,960百万円	410.2%増
経常利益	10,000百万円	991百万円	909.1%増
当期純利益	4,500百万円	△1,481百万円	—

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しています。

② 棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出については、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっています。

③ 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっています。

④ 連結会社相互間の債権債務及び取引の相殺消去

連結会社相互間の債権と債務を相殺消去するにあたり、当該債権の額と債務の額に差異が見られる場合には、合理的な範囲内で、当該差異の調整を行わないで債権と債務を相殺消去しています。

連結会社相互間の取引を相殺消去するにあたり、取引金額に差異がある場合で、当該差異の重要性が乏しいときには、親会社の金額に合わせる方法により相殺消去しています。

⑤ 税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,256	11,181
受取手形及び売掛金	2,595	4,324
たな卸資産	1,642	963
その他	5,888	8,743
貸倒引当金	△64	△77
流動資産合計	24,317	25,135
固定資産		
有形固定資産		
土地	5,934	6,514
その他	3,881	4,384
有形固定資産合計	9,815	10,898
無形固定資産		
のれん	261	326
その他	2,126	2,435
無形固定資産合計	2,387	2,761
投資その他の資産		
投資有価証券	7,924	7,989
その他	5,582	5,535
貸倒引当金	△218	△256
投資その他の資産合計	13,287	13,268
固定資産合計	25,491	26,929
資産合計	49,808	52,064
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,348	1,981
1年内償還予定の社債	720	720
1年内返済予定の長期借入金	—	61
未払法人税等	866	263
賞与引当金	17	211
役員賞与引当金	183	245
受注損失引当金	11	—
事務所移転損失引当金	—	9
その他	4,333	4,056
流動負債合計	7,481	7,547
固定負債		
社債	1,570	2,230
退職給付引当金	261	221
その他	2,494	2,569
固定負債合計	4,326	5,021
負債合計	11,807	12,568

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	7,994	7,994
利益剰余金	24,020	25,808
自己株式	△1,406	△1,330
株主資本合計	38,556	40,420
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△673	△956
為替換算調整勘定	0	△0
評価・換算差額等合計	△673	△957
少数株主持分	117	32
純資産合計	38,000	39,496
負債純資産合計	49,808	52,064

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	65,051	24,521
売上原価	42,350	10,524
売上総利益	22,701	13,997
販売費及び一般管理費	16,619	12,628
営業利益	6,082	1,368
営業外収益		
受取利息	27	8
受取配当金	188	164
その他	177	243
営業外収益合計	393	416
営業外費用		
支払利息	98	19
社債発行費	51	—
為替差損	383	2
持分法による投資損失	96	253
出資金償却	69	102
投資有価証券運用損	—	258
その他	171	57
営業外費用合計	870	693
経常利益	5,604	1,090
特別利益		
固定資産売却益	—	46
匿名組合投資利益	83	—
受取保険金	110	—
貸倒引当金戻入額	—	27
その他	3	9
特別利益合計	197	82
特別損失		
前期損益修正損	4	—
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	—	423
減損損失	148	18
災害による損失	99	—
投資有価証券評価損	693	15
制作中止損	502	16
関係会社整理損	545	—
その他	148	33
特別損失合計	2,142	506
税金等調整前四半期純利益	3,659	666
法人税等	2,932	916
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△926	24
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,654	△273

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,659	666
減価償却費	1,314	1,015
減損損失	148	18
のれん償却額	309	65
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	50	△51
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△156	△193
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	59	△61
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	26	40
受取利息及び受取配当金	△217	△173
仕入割引	△31	△19
持分法による投資損益 (△は益)	96	253
支払利息	98	19
固定資産除却損	—	409
投資有価証券評価損益 (△は益)	693	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△10,412	2,812
たな卸資産の増減額 (△は増加)	188	△678
商品化権前渡金の増減額 (△は増加)	519	761
仕入債務の増減額 (△は減少)	10,923	△1,063
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△168	338
預り金の増減額 (△は減少)	—	△1,309
その他	1,114	524
小計	8,217	3,377
利息及び配当金の受取額	2,323	178
利息の支払額	△87	△26
保険金の受取額	110	—
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△6,849	2,428
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,714	5,958
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△20
有形固定資産の取得による支出	△4,637	△411
有形固定資産の売却による収入	—	615
無形固定資産の取得による支出	△346	△310
投資有価証券の取得による支出	△266	—
出資金の払込による支出	△39	△149
貸付けによる支出	—	△357
その他	170	△16
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,120	△649

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1	—
長期借入れによる収入	1,200	—
長期借入金の返済による支出	△644	△61
社債の発行による収入	2,948	—
社債の償還による支出	△360	△660
少数株主からの払込みによる収入	—	60
配当金の支払額	△1,489	△1,501
自己株式の取得による支出	—	△76
少数株主への配当金の支払額	△24	—
その他	△23	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,604	△2,238
現金及び現金同等物に係る換算差額		
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	82	3,064
現金及び現金同等物の期首残高	12,693	11,181
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,776	14,246

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	PS・ フィールド (百万円)	ゲーム・ フィールド (百万円)	スポーツ・ フィールド (百万円)	映像・ フィールド (百万円)	その他・ フィールド (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	52,150	8,668	2,957	72	1,202	65,051	—	65,051
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	350	82	37	—	9	480	(480)	—
計	52,501	8,751	2,995	72	1,212	65,532	(480)	65,051
営業利益又は営業損失 (△)	7,712	△ 926	△ 437	△ 514	261	6,095	△ 13	6,082

(注) 1 事業の区分は商品、サービス等の類似性を考慮してPS・フィールド、ゲーム・フィールド、スポーツ・フィールド、映像・フィールド、その他・フィールドの区分になっております。

2 各事業の主要な内容

- (1) PS・フィールド：遊技機の仕入販売、企画、開発かつこれに付帯する関連業務等
- (2) ゲーム・フィールド：ゲームソフト等パッケージソフトの企画開発、販売等
- (3) スポーツ・フィールド：スポーツマネジメント他
- (4) 映像・フィールド：映画製作事業、デジタルコンテンツの創出、著作権等の取得
- (5) その他・フィールド：アニメーションの企画、制作及びプロデュース等

3 事業区分の変更

従来、「その他・フィールド」に含めて表示していたスポーツマネジメント、映像事業につきましては、金額的重要性が増したため、第1四半期連結累計期間より「スポーツ・フィールド」、「映像・フィールド」と区分表示することに変更いたしました。

これによるセグメントに与える影響はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	PS・ フィールド (百万円)	スポーツエンタテイン メント・フィールド (百万円)	モバイル・ フィールド (百万円)	その他・ フィールド (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	21,300	1,806	1,403	10	24,521	—	24,521
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	205	0	0	259	466	(466)	—
計	21,505	1,807	1,403	270	24,987	(466)	24,521
営業利益又は営業損失 (△)	1,463	△ 253	305	△ 69	1,446	△ 78	1,368

(注) 1 事業の区分は商品、サービス等の類似性を考慮してPS・フィールド、スポーツエンタテインメント・フィールド、モバイル・フィールド、その他・フィールドの区分になっています。

2 各事業の主要な内容

- (1) PS・フィールド：遊技機の仕入販売、企画、開発かつこれに付帯する関連業務等
- (2) スポーツエンタテインメント・フィールド：スポーツマネジメント他
- (3) モバイル・フィールド：モバイルコンテンツ等
- (4) その他・フィールド：アニメーションの企画、制作及びプロデュース、映画製作事業等

3 追加情報

従来「スポーツ・フィールド」で表示していたスポーツマネジメント他事業につきましては、新たな事業展開に鑑み、第1四半期連結累計期間より「スポーツエンタテインメント・フィールド」に名称を変更しました。

従来「ゲーム・フィールド」で表示していたゲームソフト等パッケージソフトの企画開発、販売事業につきましては、子会社株式の売却等を行った事により、前連結会計年度において消滅しています。

従来「その他・フィールド」として表示していたモバイルコンテンツ事業につきましては、前連結会計年度に金額的重要性が増したため、「Webサービス・フィールド」に区分表示しましたが、携帯コンテンツにおける提供サービスの拡充等による事業展開に鑑み、第1四半期連結累計期間より「モバイル・フィールド」に名称を変更しました。

従来「映像・フィールド」で表示していたデジタルコンテンツの創出、著作権等の取得事業につきましては、当社を存続会社とする吸収合併により、前連結会計年度において消滅しています。また映画製作事業につきましては金額的重要性が減少したため、第1四半期連結累計期間より「その他・フィールド」に含めて表示しています。

なお、前第3四半期連結累計期間において当第3四半期連結累計期間の事業区分によった場合の事業の種類別セグメント情報は、次の通りです。

	PS・ フィールド (百万円)	スポーツ エンタテイ ンメント・ フィールド (百万円)	モバイル・ フィールド (百万円)	ゲーム・ フィールド (百万円)	その他・ フィールド (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	52,150	2,957	1,168	8,668	105	65,051	—	65,051
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	350	37	—	82	9	480	(480)	—
計	52,501	2,995	1,168	8,751	115	65,532	(480)	65,051
営業利益又は営業損失 (△)	7,712	△ 437	373	△ 926	△ 626	6,095	△ 13	6,082

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が、90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しています。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

該当事項はありません。

6. その他の情報

特に記載すべき事項はありません。